



在米 
薬剤師
SAKINAの
アメリカ子育て体験談

普通の日本の6年制薬学部を卒業し薬剤師勤務していた薬剤師 SAKINA は、結婚を機に渡米。そして、妊娠・出産からの一人子育て・・薬剤師目線で、日本女子目線で語る アメリカでの体験と日米の違いからの学び

第11回 病院受診について～整形外科（Orthopedics）編～

先日、左手首の痛みかつ、寝起きに両手の指を曲げた時のこわばり・違和感が続いていたので、アメリカで初めて整形外科クリニックを受診しました。実際に経験した一連の流れについてお伝えしたいと思います。

① 病院検索

ネットで Orthopedics near me と入力して、レビューの高いところを選びました。予約を取る前に、自分の加入している保険が使えるクリニックかどうかを保険会社のサイトで確認しました。

② 予約時：電話で聞かれたこと※1

- ・ 氏名
- ・ 生年月日
- ・ 住所
- ・ 健康保険の会社、保険証に載っている番号
- ・ 症状
- ・ どの医師の予約を取りたいか※2
- ・ 都合の良い日時※3

※1 病院/クリニックのHPにインターネット予約のフォームがある場合は、ネット予約もできます。

※2 アメリカでは病院を予約する際、担当してほしい医師の予約をとります。私は特に誰でも構わなかったため、一番早く診てくれる医師の予約をしました。

※3 日時決定後、受診当日は予約時刻の15分前にくるように言われました。



③ 初診時の受付にて

- ・ 問診表の記入

氏名、生年月日、住所、健康保険の情報、連絡先、緊急連絡先、受診した理由・症状、既往歴・病歴、家族の病歴、アレルギーの有無、薬服用の有無、アルコール・タバコ使用の有無、人種、かかりつけ薬局の場所

インターネット予約の際は、これらの情報を入力するポータルサイトやリンクがメールに送られてくるので、受診前にオンラインで入力することが求められます。

④ 診察

1. 提出した問診表をもとに、看護師による情報の聞き取り
2. 看護師から医師へ情報伝達
3. 医師による診察

診察の結果、左手の手首の痛みは腱鞘炎と診断され、痛みが生じるメカニズムについての説明を受けました。また、手首を固定するギプスを渡され、就寝時につけるよう指示されました。ギプスは290ドル（約3万円）するものの、多くの保険で代金はカバーされるとのことだったので使用することにしました（実際の請求額については後述）。痛みに対してはイブプロフェンの服用をし、ギプスをしても症状が改善しなければ患部へステロイド注射をしたほうがいいとのことでした。

指先のこわばりについては、関節リウマチ（Rheumatoid Arthritis）の可能性も考慮しいくつかの血液検査を受けることになりました。ただ、このクリニックでは採血はできないので、後日採血のオーダー表をもって提携している大学病院の採血センターを受診するようと言われました。



290ドルのギプス



〈採血オーダー内容〉

	TEST CODE/DESCRIPTION		DIAGNOSIS CODES
1)	LAB141 Laboratory Uric Acid Required Specimen: Blood	尿酸値	*M79.642
2)	LAB147 ANTINUCLEAR ANTIBODY SCREEN Required Specimen: Blood	抗核抗体	*M79.642
3)	LAB149 C-Reactive Protein Required Specimen: Blood	C反応性タンパク(CRP)	*M79.642
4)	LAB206 Rheumatoid Factor Quant Required Specimen: Blood	リウマトイド因子(RF)	*M79.642
5)	LAB322 Sed Rate Required Specimen: Blood	血沈	*M79.642
6)	LAB4680 CCP Antibodies IGG/IGA Required Specimen: Blood	抗CCP抗体	*M79.642
7)	LAB869 HLA-B27 antigen Required Specimen: Blood	HLA-B27抗原	*M79.642

⑤ 診察後の受付にて

- ・ 次回の予約
- ・ ギプスの代金一部（20ドル）支払い。保険でカバーされる場合は後で戻ってくるとのこと。

〈会計について〉自分が加入している保険会社やプランによってカバーされる額が異なるため、人によって請求額が異なります。そのため、その場での支払いはありません。後日自宅に請求書が送られてくるので、病院のHPに設けられている支払いのページでクレジットカードなどの情報を入力して支払うか小切手を送って支払います。保険のCo-Payの場合は、一定額を窓口で支払い、後日送られてくる請求書の額をまた支払います。

⑥ 採血専用のラボでの採血

整形外科クリニック受診の次の日に、提携病院のウォークイン（予約しなくてもよい）ラボを訪れました。

1. 受付で採血オーダー表の提出
2. 受付で氏名、生年月日、住所、連絡先などの聴取および身分証明書、保険証の提示
3. 採血実施→採血の結果は直接整形外科に送られるため、結果はそこで聞くようにと言われました。



⑦ 電話にて検査結果の確認

結果が出るのは1週間くらいとのことだったので、その頃に整形外科に電話しました。看護師につないでもらい、本人確認をされた後、結果を教えてくださいました。なお、電話で結果を聞いたからといって、別途料金が発生したりはしません。

病院によってはポータルサイトで結果が見れたり、病院の方から結果の連絡をもらえたりします。

⑧ 請求書受領

整形外科受診から約3週間後に保険会社から請求書を受領しました。

請求額は整形外科クリニックでの診察、ウォークインラボでの採血、ギプス代を併せて\$389.20でした。

	保険適用前	保険負担額	支払額
整形外科	\$198.00	\$79.29	\$118.71
ウォークインラボ	\$223.45	\$152.92	\$70.53
ギプス代	\$290.00	\$90.04	\$199.96
合計	\$711.45	\$322.25	\$389.20

〈ウォークインラボ 請求書内訳〉

ASSAY BLOOD URIC ACID	\$4.62
COLLECTION OF VENOUS BLOOD	\$0.00
MEDICAL SERVICES	\$26.41
RHEUMATOID FACTOR TEST	\$5.81
CYCLIC CITRULLINATED	\$13.25
C-REACTIVE PROTEIN	\$5.30
MEDICAL SERVICES	\$12.37
RBC SED RATE, AUTO	\$2.77





<実際に整形外科を受診した感想>

日本と大きく違うと感じた点は、クリニック内で採血を受けられなかったことです。日本では診察時に採血が必要と判断された場合、そのままかかった病院/クリニック内で実施するのが当たり前だったので、わざわざ血液検査を受けるために別の場所に出向くのは非常に不便だと思いました。特に私の住んでいる地域はクリニックと採血専用のラボも離れていて、車での移動が必要でした。時間も手間も余計にかかるのは患者にとって負担になるのではないかなと感じました。ただ調べてみると、アメリカは分業が進んでいるため、採血を別の採血専門施設で受けることも多いようです。自分が感じたこの分業のメリットは、採血実施者が非常に手馴れているため、採血がスムーズ（血管を探すのも早く、さす時の痛みもあまり感じず）に済んだことかなと思います。

請求額ですが、覚悟はしていたもののやはり高かったです。ギブス代はもっと保険でカバーされると思っていたので、請求額に面喰いました。保険がきいているのでまだ費用は抑えられていますが、整形外科の診察のみで\$118.71（約1万2千円）はなかなかの出費だと思いました。レントゲンをとったわけでも、薬を使用したり施術を受けたわけでもないのに、もしこれらを実施するといくらまで膨れ上がるのだろうと恐怖でしかないです。血液検査は異常なく腱鞘炎も手指の違和感も様子見でとのことだったので、ひとまず次回予約はキャンセルしました。加入している保険によるところではありますが、私の場合、今回全体の費用は保険がきいてトータル\$389.20、保険なしの場合は\$711.45なので、いかにアメリカの医療費が高いかというのを思い知らされました。